

Not only has the art and **craft** of **printing** and making books been greatly improved / over the centuries, / **but** the great variety of subject matter now **available** in books is surprising, / to say the least.

Another important reason [why the Internet will never replace books] / is [because those [who wish to become writers] want to **see their works permanently published** as books / — something [you can hold, see, feel, look through, and read at your **leisure** / without the need for an **electric** current **apart** from a lamp]].

内容Check!

問 次の各文が正しければ () に○を、誤っていれば×を記入しなさい。

1. There are all kinds of books on a great many subjects available now. ()
2. The good thing about a book, according to the author, is that you can hold and feel it. ()
3. The writer uses a library to research books for the Internet. ()

覚えておきたい表現

not only A but (also) B 「A だけでなく B も」

ℓ.1 : **Not only** has the art and craft of printing and making books been greatly improved over the centuries, **but** the great variety of subject matter now available in books is surprising 「本を印刷して製作するという技術やわざが、何世紀にもわたって大いに改善されてきただけでなく、現在本で得られる題材の多種多様さは、驚くほどである」

・not only A but (also) B 「A だけでなく B も」: この文では not only が強調のために文頭に置かれているので、助動詞 has が主語の前にきて、倒置文を作っている。

Ex. She has made **not only** the gift itself **but also** the box to put it in. 「彼女は贈り物だけでなく、それを入れる箱も作った。」

see+O+過去分詞 「O が…されるのを見る」

ℓ.8 : those who wish to become writers want to **see their works** permanently **published** as books 「作家になることを願う人たちが、自分の作品が本として永久的に出版されているのを見たい」

・see+O+過去分詞 「O が…されるのを見る」: 知覚動詞の構文である。過去分詞の部分には、原形 (「O が…するのを見る」) や現在分詞 (「O が…しているのを見る」) がくることもある。また、知覚動詞には see の他に hear, feel などがある。

Ex. Did you **hear the man shouting** at his daughter? 「あの男が自分の娘に怒鳴っているのを聞きましたか。」

be 動詞+不定詞

ℓ.12 : the finished product must eventually end up as a book if it **is to have** value to the reading public 「完成した作品が一般読者にとって価値あるものでありたいなら、結局最後には本になる必要がある」

・be 動詞+不定詞: **予定** 「…することになっている」、**義務** 「…すべきだ」、**意図** 「…したい」、**可能性** 「…できる」、**運命** 「…する運命になっている」などを表す。ここでは「…したい」という意図を表す。

Ex. They **are to come** over to us tomorrow evening. 「彼らは明日の夕方、私たちのところに来ることになっている。」(予定)

Ex. You **are to inform** us of anything suspicious. 「あなたは何であれ疑わしいものについて私たちに知らせるべきだ。」(義務)

整理しよう! *段落要旨・構造*

① 本で得られる題材の多種多様さ

印刷・製本技術の向上に加え、本が扱うテーマも驚くほど豊富だ。

◆ ℓ.3 **in fact** 「実際には: 主張」

インターネットが研究や学習に役立つためには、常に著者とその著書のエントリーが必要。(→ だから本の方が素晴らしいという内容)

② インターネットが本にとって代わらないもう1つの理由

・著者は、その著作物の最終的な形が本であってほしいと願うため。

←本は、電流を必要とせず、時間のある時に、自由に接することができる。

◆ ℓ.11 **may** 「~かもしれない: 譲歩」

・著者は(執筆の際に)コンピュータを使うかもしれない。

◆ ℓ.12 **but** 「しかし: 逆接」

読者にとって作品が価値のあるものになるには、本となる必要がある。(主張の繰り返し)

背景知識

● インターネット上に書籍情報を掲載する動きと、著者たちとの衝突

インターネット時代の出版を考える上では、読み手の側だけでなく、本という形式で出版を望む著者の立場も見落とすことができない。ここではそうした著者たちと、インターネット上で書籍の情報を PDF などのデータにして閲覧可能にする動きとの衝突の例を見ておこう。

ことの起こりは、インターネット検索サービス大手の Google 社が、大学図書館などが所蔵する書籍の全文をウェブ上で検索できるようにするプロジェクト(現在の「Google ブック検索」というサービス)を開始したことだった。Google 社は書籍をスキャンしてウェブ上で閲覧できるようにデジタルデータ化したが、その中には著作権切れになっていない書籍も含まれていた。Google 社はそうした書籍の一部も閲覧可能にしていたため、著者側(米作家協会)と出版社側(米国出版社協会)が、その行為自体が彼らの著作権を侵害するとして Google 社を提訴した。結局、この訴訟は Google 社が著作権者側・出版社側と和解することで終結することになった。Google の他にも書籍をウェブ上で公開しようとする動きは方々で見られるが、できる限り多くの人に書籍の閲覧を可能にしようという意図のもとに行われているようだ。